

様式1 令和2年度 宇陀市立 菟田野中学校 学校自己評価書								
教育目標		学ぶ意欲をもち、人のつながりを大切に、人を思い、協働する力を育てる～『非認知能力』を伸ばす～						
運営方針		教職員を適材適所に配置し、組織的に学校運営・学級経営を行うとともに、保護者や地域とともに学校を活性化させる。						
前年度からの課題		・基礎学力の徹底 ・学ぶ意欲の向上	・家庭学習	本年度重点目標	○ 学力向上(客観的データに基づく取組) ○ 学級集団づくり(互いに高め合える集団・一人ひとりが活き活きと活動できる集団) ○ 自分たちで誇れる学校(達成感のある活動) ○ 保護者や地域に信頼される学校			
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題・改善方針	
I 教育活動に関するもの	(1) 基礎学力の定着と向上	① 学習指導計画	指導計画(シラバス)の作成と実施状況	・家庭学習の習慣化のために「自主学習ノート」、わかりやすい授業のために「学び合い」活動に学校全体で取り組んだ。 ・家庭学習の時間が定着してきた。 ・研究授業や小中教育連携会議などで小中全職員で指導法などについて協議を重ね、7つの「菟田野「つづいた力」カリキュラム」を作成した。 ・県学力向上実践研究推進事業の取組を継承し、引き続き取組を進めた。 ・生徒個人用タブレットの導入。生徒が家庭へ持ち帰っての活用を始める。 ・コロナ禍の中、集会や話し合い活動等多くの活動に制限がある中、工夫の凝らした活動考えた。	B	A	・「シラバスを活用」保護者肯定的48%(昨年度比+13%)で、家庭での教育への関心が高まる。 ・「わかりやすい授業」生徒肯定的94%(昨年度比+8%)・保護者76%(昨年度比+3%)全体に上昇した。 ・「適切に評価」肯定的生徒94%(+7)保護者78%(昨年度比同) ・「家庭での学習をしているか」肯定的75%(昨年度比+9%) ふだんの家庭学習の時間、「1時間以上」の生徒が、1年60% 2年55% 3年85%と過半数を超えており、家庭学習が定着してきている。 「自分の考えを発表する機会があたえられている」1年95%2年93%3年94%「話し合う活動」1年89%2年77%3年65%と、肯定的な数値は高く、活動に制限のある中でも確実にできる活動を行っており成果は出ている。	・「シラバス」の内容の検討や使用方法をより広く伝える。 ・よりわかりやすい授業研究を進める。 ・「自主学習ノート」の定着で家庭学習の習慣はついてきたが、より「深い学び」につなげるための指導方法を研究していく。 ・継続することの大切さを伝え、工夫をしながら引き続き取り組んでいく。 ・「学び合い」活動の実践を積み重ねて授業改善を進めて行く。
		② 指導方法の工夫改善	学力向上に向けた指導の工夫(学び合い等)とわかりやすい授業実践		B			
		③ 評価	適切な評価		A			
		④ 家庭学習の指導	家庭学習の習慣化のための指導の工夫と実践		A			
	(2) 自主的・主体的に行動できる生徒の育成	① 挨拶と掃除の定着	挨拶の習慣化と清掃活動の定着	・生徒会の挨拶運動や呼びかけ。 ・生徒の企画運営による全校集会の実施。 ・体育大会で、生徒実行委員による企画、運営を行い。合唱コンクールでも各クラス意欲的に取り組んだ。 ・各学年、活発な体験学習を行う。 1年: 福祉体験学習 2年: ふれあい体験・職場体験学習 3年: 修学旅行・平和学習と進路に向けてなど。 ・本年度は、コロナ感染症拡大防止のため、様々な活動が制限された中、できる限りの活動を工夫し行った。	A	A	・「自分から挨拶をしている」肯定的生徒92%(昨年度比+3)保護者89%(昨年度比+8) ・「掃除を熱心に行っている」肯定的生徒99%(昨年度比+7) ・「生徒会・福祉委員会で積極的」肯定的生徒83%(昨年度比-6%) ・「学校行事が充実」肯定的生徒95%(昨年度比同) ・「部活動に意欲」肯定的生徒79%(昨年度比-4%) ・コロナ禍の影響で、活動が減った部活動や福祉委員会活動等は、マイナスの影響があるが、生徒の意欲や行事に対しては、肯定的である。	・挨拶と掃除を大切にすることは、今後も重視していく。 ・生徒会の活動が、生徒の主体性と個性を活かす活動となるよう進めていく。 ・コロナ禍の体制は今しばらく続くことが予想されるため、今できる形を模索し、活動の充実を図りたい。
		② 学級・学年指導の充実	学級活動・道徳・総合的な学習の時間の指導の工夫と実践		A			
		③ 生徒会活動の活性化	生徒が主体となって意欲的に取り組む		B			
		④ 部活動の活性化	安全に、生徒が意欲的に取り組む		B			
	(3) 人権意識の育成	① 人権教育指導計画	確かな人権意識を身につけさせる指導計画	・学年での取組・生徒集会での発表。 ・生徒会や1年生による福祉施設との協同活動。など。 ・人権フェスティバルへの取組。	A	B	・「人権に関する行事が充実」肯定的生徒95% ・「いじめや暴力にあう心配が少ない」肯定的生徒93% ・「一人ひとりを大切に教育」肯定的保護者78%	・人権を大切に教育は本校の伝統である。その強みを今後も活かしながら、時代に即した教材研究を進める。 ・地域の方との交流方法を、今後も考えていく。
		② 指導方法の工夫改善	生徒の実態にあった題材と、工夫ある授業実践		B			
	(4) 生徒指導	① 組織的な生徒指導	組織的な取組で規範意識を高める指導を行う	・学年だけでなく学校全体での、情報の共有を大切にした生徒の指導を行うことを常に大事にした。 ・キャリアパスポートの実施。 ・スマホ・携帯安心出前講座・薬物乱用防止教室の実施。 ・スクリーニング会議の実施。生徒の状況を専門家であるスクールカウンセラーを交えて確認、年2回行う。	A	A	・「服装、交通ルールを守っている」肯定的生徒98% ・「心配事を先生に話せる」肯定的生徒71% 保護者84% ・「PTA活動に積極的参加」肯定的保護者69%(昨年比+10)	・今後も様々な場面を通して、ルールを守る社会性を育てると共に、自律心を持たせる指導を進めていく。 ・学校の情報を積極的に伝え、保護者や地域との信頼関係の構築に努める。 ・PTA活動への意識は年々上がっており、今後も協働して進めていく。
		② 教育相談・生徒理解	教育相談の充実とスクールカウンセラーの活用		A			
		③ 家庭との連携	家庭との連絡を密にし、連携を深める		A			
		④ 関係機関との連携	関係機関との連絡を密にし、連携を深める		A			
	(5) 特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	生徒の特性を理解し組織的に特別支援教育を進める	・特別支援教育個別の指導計画の作成。 ・特別支援教育部会を定期的に行い、教員の指導の共通理解を進めた。 ・授業のユニバーサルデザイン化の取組を続けている。 ・特別支援学級保護者会の実施。 ・職員特別支援教育研修の実施。 ・市特別支援教育指導員の来校、年5回。	A	A	・全教員で共通理解の場を毎月設け、個別の指導計画を基に指導を行った。 ・個別の指導を、より専門的に行い、個々の学習の充実に努めた。 ・「UDxスタンダード」の実践は進んでいるが、授業のユニバーサルデザイン化は、まだまだ徹底しなければならない点などがある。 ・特別支援学級保護者会で、全職員が参加し、保護者と情報共有や交流を進めることができた。	・授業のユニバーサル化の視点を今後も大切にし、検討見直しを定期的に行う。 ・関係機関との連携を密にし、専門的な意見をききながら進める。
		② 個別の指導計画	個別の指導計画を基にした、指導の充実		B			
③ 家庭との連携		家庭との連絡を密にし、連携を深める		A				
④ 関係機関との連携		関係機関との連絡を密にし、連携を深める		A				

様式2 令和2年度 学校自己評価項目（学校経営）							学校名【 菟田野中学校 】	
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	評価		評価の観点・理由	課題・改善方策
II 学校経営に関するもの	(1)組織運営	① 学校経営目標	学校経営目標の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のグランドデザインを作成し、学校便りや学校ホームページ等で周知する。 ・教員の経験や能力を考慮した分掌配置を行う。 ・各校務分掌の会議を、定期的実施する。 ・チーム担任制を意識し、道徳授業や、日頃の指導に活かした。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標をグランドデザインとして周知し、具体的な目標を掲げ取り組んだ。 ・部活のない日を、ノー残業デーとした。 ・各分掌での会議も定期的に行い、情報共有等、組織的な運営を行うよう取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の周知や広報を更に丁寧に行う。 ・働き方改革の視点を考えた、業務の効率化を考える。 ・各分掌の会議を定期的確実にし、その総括を次に活かせる体制作りを行う。
		② 校務分掌等の連携	校務分掌の適正化と連携を密に行う		A			
		③ 会議の運営	定期的な開催と活性化		B			
	(2)研究・研修	① 研修の組織・計画・実施	組織的な運営と課題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を年に、教科研究2回（県指導主事を招聘）、全教員で研修した。 ・ギガスクールの実施に向けて、ICTに関する研修を実施。 ・県学力量向上実践研究推進事業での取組のの継承。 ・小中連携教育会議を小中の全教員で定期的に行い、交流と実践の研修を行う。 ・英語科の小中連携授業を行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・県学力量向上実践研究推進事業の活動を継続して取り組み、職員の研究研修を行う。コロナ禍の下での新たな工夫を研修している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「わかる授業」作りを進める研修、研究を進めていく。 ・次年度も引き続き予想されるコロナ禍での、様々な工夫を、更に全体で研修する。
		② 校内研修	実態に即したテーマと実施の工夫		B			
		③ 授業研究	活発な交流と成果を実践につなげる		A			
	(3)保健管理	① 学校保健安全計画	適切な学校保健安全計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全計画に従い、共通確認の下進める。 ・新型コロナウイルス感染症対策を学校全隊で確実にし、毎日の職員による消毒作業等、年間通じて計画的に行えた。 ・熱中症対応指針を作り、学校で共通確認を行い、WBGTの測定を行う。 ・保健便りの発行。 ・学校カウンセラー来校、月1回。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対応をその都度迅速に行い、感染症の予防に努めた。生徒への指導の徹底も繰り返し行った。「学校でのコロナ感染症対応」肯定的生徒95% 保護者87% ・アレルギー対応等、繰り返し確認を行い、対応の統一を図った。 ・校内でのスクリーニング会議の実施で、専門家の意見の下、全体で生徒の実情を見直す機会をもった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策として、細かい保健指導を今後も徹底していく。 ・アレルギー対応の確認、研修は今後も定期的に行う。 ・生徒観察を怠らず、教員の情報共有を大切にす。 ・学校カウンセラーの有効な活用。
		② 保健指導	保健指導の充実		A			
		③ 健康相談体制の整備	教育相談・学校カウンセラーの活用		B			
	(4)保護者・地域との連携	① 学校情報の発信	学校ホームページ・学校便り・学年便り等の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの更新を毎月行い、行事写真・学校便り・学校からのお知らせ等の広報を行った。 ・学校便り、学年学級便りの発行。 ・コロナ禍対応で、オープンスクールに代えて学年別発表会の実施。当日は学年の取組や合唱の発表を行った。 ・小中全教員による小中教育連携会議を年2回行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校、学年便りや学校ホームページで様子がわかる」肯定的保護者81%。 ・「配信メールが役に立っている」肯定的保護者83%。 ・小中教育連携会議が定着し、9年間で目指す教育を、小中の全教員で話し合う形ができています。今年は、7つの「菟田野「つきたい力」カリキュラム」を小中協働で作成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の活動、取組の目指すもの等、より丁寧な広報に努める。 ・義務教育9年間を通した教育を考え、菟田野の子どもたちを育てる体制を作っていく。
		② 学校(授業)公開	授業参観・オープンスクールの実施		A			
		③ 家庭・地域との連携	地域活動への参加・地域住民の参加		B			
		④ 校種間連携	小中の連携を進める		B			
	(5)教育環境の整備	① 施設設備の有効活用	学校施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館、格技室の地域への開放。 ・教材、教具を適正に管理し、計画的に使用。 ・校舎Wi-Fi環境の整備、生徒一人ひとりへのタブレット、及び家庭へのルーター貸し出し等で、ICT環境が整備された。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の開放を積極的に行い、有効に利用された。 ・教材、教具の管理は適正に行い、活用することができた。 ・個人用タブレットを家庭へ持ち帰る環境が整った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的かつ、より有効な活用方法の研修を進める。
		② 教材教具の整備	教材・教具の整備、活用状況		A			